

## 令和 5 年度 大学塾 第 1 ステージ 開催案内

### 日本経済入門 2023 ～円安・食料・エネルギー～

コロナの世界的大流行が収束しない中、昨年 2 月のウクライナ侵攻以降、ロシアがエネルギーと食料の供給を制限したことから、世界経済はコロナに加え、エネルギー不足、物価上昇、通貨不安等の課題に直面しています。また、長期低迷が続く日本経済にも物価上昇、急激な円安等の影響が及んでいます。本講座では①急激な円安の背景と影響、②我が国の食料の安定供給、③世界のエネルギー供給と日本について内外の最新のデータや図表を用いて分かり易く解説します。

講師：芝田寛 氏

元農林水産庁 課長職(農林水産庁で農業白書及び旧経済企画庁で国民生活白書の執筆に携わる)

日時：4 月 1・8・15 日(土曜日) 全 3 回 午後 2 時～4 時

会場：足立区生涯学習センター(学びピア 21 内) 5 階 研修室 1

講義内容：第 1 回 急激な円安の背景と影響を考える  
第 2 回 我が国の食料の安定供給を考える  
第 3 回 世界のエネルギー供給と日本を考える



### 令和 5 年 2 月 月例会 開催報告 社会福祉協議会の事業について



2 月 16 日 月例会は足立区社会福祉協議会のお二人において頂き、講演をして頂きました。「社会福祉協議会の事業について」をテーマに、初めに基幹地域包括支援センター 地域福祉課主査 宮澤道成氏より社会福祉協議会(以下社協)はどのような組織か、どのようにして設立したかなど社協の歴史を話して頂きました。戦後の福祉から高度経済成長期、介護保険前夜、介護保険以降、最近の動向など、世の中の変動と共に社協の役割や求められるものが変化しています。特に足立区は貧困層、低学力の傾向が多く、社会的認知度の低さも認められる特殊性があります。そんな状況の中で、足立区社協は「〇〇であってもなくても誰もが幸せに暮らせる社会を築くこと」「〈区民・住民が主役〉私たちが創るあだち 安心して暮らせる支えあいのあるまち」をメインテーマに挑戦し、課題を明確にして目標を決め、取り組みをしています。

次に基幹地域包括支援センター 地域福祉課課長 鈴木香世氏より地域で実際に取り組んでいる活動の様子をパワーポイントで紹介して頂きました。区内を地域包括ブロックごとの 5 つに分け、地域福祉課が支援しながら活動が行われています。① 千住では「千住ウォーカ 歴史と防災」に取り組み、歴史を訪ねて地域を歩く、自分たちのまちづくり活動。② 中部では「元気アップサポーター養成研修」でリーダーを育て、ウォーキング、体操など、外での活動と地域の人たちの居場所づくり。③ 東部では「あいさつ隊」と称してごみを拾いながら小学生にあいさつをし、若い世代と世代交流。④ 西部では「あだちご近所マルシェ」、ケアホームを中心に駐車場を開放し、キッチンカーを呼び地域の人に集まってもらう。⑤ 北部では「あいつもっと便」で子どもとイベントを行うなど、各ブロックの地域の特徴と要望を生かしながら活動が展開されています。

社協はいろいろな情報を集め、発信しながら地域の中でグループや団体、個人、企業などをマッチングさせてつなげる役割をされているということです。地域情報は、ブログ、フェイスブック、公式ラインなどをツールとして発信されています。また、介護関係事業や権利擁護事業、民生委員や町会関係、ボランティア関連など多岐にわたる事業を展開されています。短い時間の中でご説明頂き、いくつかの質問にもお答えいただきました。ご参加いただいた 12 名の会員のみなさんには、シニアに関わりの多い社協が少し身近になったのではないかと思います。社協さんありがとうございました。

(ボランティア活動推進部)

# 令和4年度 第4ステージ 講座 報告

## 徳川家康と二英傑(信長・秀吉)の謎と真相

1月15・22・29日(日)の3回にわたり、NHK大河ドラマ「どうする家康」に関連した講座として生涯学習センター講堂にて開催された。

応募者は75名、受講者は71名、出席者は第1回65名・第2回62名・第3回54名で合計181名であった。講師は歴史研究家・博士(文学)・江戸ぶら会会長 跡部 蛮氏。

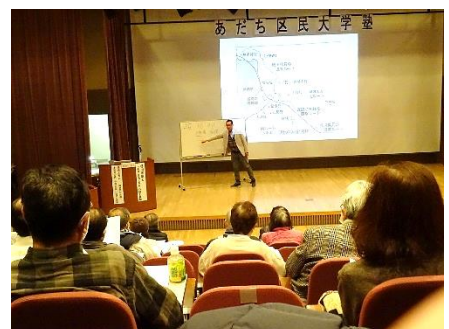
**第1回**は「信長と秀吉 桶狭間の合戦・本能寺の変・中国大返しの謎と真相」として、家康登場の前に信長と秀吉の二英傑について講義が進められた。まず信長であるが、桶狭間の合戦・比叡山延暦寺焼き討ち事件を通じて、信長の合戦に対する最近の研究による解釈や信長の持つ誤解されやすい言動について解説された。本能寺の変については明智光秀がなぜ単独で謀反に及んだのか、国替え問題など光秀側の動機が分析された。次いで秀吉について、本能寺の変から中国大返し(備中高松城で合戦中の秀吉が信長の訃報を知り速やかに毛利氏と講和し京に向けて引き返したこと)の状況が紹介された。特に羽柴軍の食料(米や水)の準備の周到さから、秀吉は信長暗殺計画を知っていた可能性が指摘された。ここまでで第1回は時間切れとなった。

**第2回**は「徳川氏の素性と一族の歴史 家康の人質時代から長篠の合戦までの謎と真相」であるが、その前に第1回の積み残し部分の秀吉の本能寺の変から天下篡奪までが解説された。信長の後継者を決める清洲会議や小牧長久手の合戦の後に関白となるが、天下をおさめるには摂関家では力不足で出来ないの、自分が関白を引き受けたとしている。朝鮮出兵はその後の中国出兵を考えたものであり、スペインなどのヨーロッパ勢力の中国や日本征服に対応する動きであったが、その最中に秀吉は病死してしまった。第2回の後半からが、徳川家康についての講義となった。徳川一族の出身地から始まり、徳川姓を名乗るまでが説明された。さらに長篠合戦における鉄砲3000挺三段撃ちの真相が説明された。

**第3回**は「地震に救われた家康、天下取りまでの謎と真相」として、1585年の天正大地震により家康が秀吉から成敗されるのを免れた。1598年の秀吉の死から2年後の関ヶ原の合戦・大坂冬の陣・夏の陣におけるエピソードが紹介された。その中で方広寺銘鐘事件については梵鐘に刻まれた「国家安康」「君臣豊楽」について林羅山と南禅寺の文英清韓の論争が紹介された。大阪城は外堀が埋め立てられ、秀頼と淀殿は自害した。家康は翌年正月21日に鷹狩りの際に鯛の天ぷらを食して体調を崩しその後死去した。胃がんであったとの説もある。

**受講者のご意見**・大変よく理解できて、さらに大河ドラマを楽しめると思いました。・資料が豊富にあり、新しい説を聞くことができ、大河ドラマを見るとき参考になる内容で、興味がわいた。・今までと違う視点での史実の解説が楽しかった。など大河ドラマ関連の感想が寄せられた。

(糸井史郎)



## 「日本書紀」 編纂 1300年～真偽を読み解く～



2月7・14・21日（火）の3回にわたり、生涯学習センター 研修室1において開催された。受講申込者は60名、受講者56名、出席者は第1回52名・第2回54名・第3回50名・合計156名であった。講師はNPO法人シニア大楽講師で歴史研究家の榎原金市氏。

**第1回**は「神話時代、初代神武天皇、日本武尊 など」である。40代天武天皇は壬申の乱に勝利した大海人皇子が673年に即位し、初めて「天皇」という称号を用いられたといわれている。律令制度に着手し、国史として「古事記」と「日本書紀」の編纂を命じた。編集者はいずれも太安万侶。「古事記」は全3巻で稗田阿礼が712年に編纂した日本最古の書物である。神代から推古天皇までを日本人の話し言葉で記述されている。「日本書紀」は草壁王子ら皇子と文官12人が720年に編纂した全30巻である。中国の史書を参考に、漢文で書かれており中国の皇帝に日本の歴史を認識してもらうのが目的であった。次いで初代の神武から12代景行の皇子の日本武尊まで解説された。

**第2回**は「卑弥呼と邪馬台国、仏教伝来、新羅戦争 など」で、13代成務から32代崇峻まで。卑弥呼と邪馬台国についてまず「漢書」記載の「金印」が紹介され、講師から「金印」のレプリカが示され、思ったより小さいとの受講者の反応であった。14代仲哀の神功皇后は卑弥呼に例えられているが、クニの場所・卑弥呼の墓・魏から受領した銅鏡100枚等が発見されておらず、両者の没年も相違がある。「魏志倭人伝」には「邪馬台国」「卑弥呼」の記載があるが、「日本書紀」には記載がない。29代欽明の512年に百濟より仏像と経典が伝わる。31代用明の皇太子となる聖徳太子が誕生した。589年曾我馬子は物部守屋を破り仏教擁護派が勝利した。

**第3回**は「聖徳太子、大化の改新、天武天皇 など」で33代推古から40代天武まで。推古の摂政となった聖徳太子について詳しく説明された。太子の呼称は古事記では「上宮」、日本書紀では「厩戸皇子」、法隆寺東院資材帳では「聖徳太子」となっている。現在の中学校は「聖徳太子（厩戸王）」で高校では「厩戸王（聖徳太子）」で文科省の中学と高校の担当部門が異なるからと言われている。太子の業績と言われる冠位十二階・十七条憲法・遣隋使派遣については否定的な見解が示された。35代皇極の645年「乙巳の変」により中大兄皇子が中臣鎌と協力して、蘇我入鹿を倒し天皇の地位は安定した。翌年「大化の改新」の詔が發布された。38代天智は中大兄皇子であるが、百濟の依頼により派兵して新羅と戦うが、白村江において大敗する。天智の弟の大海人皇子は皇太子にするものの、息子の大友皇子が39代弘文に即位しその後争いとなり、大海人皇子が勝利し、弘文は自決する。大海人皇子は40代天武天皇となり、「古事記」「日本書紀」を編纂する。



**受講者の言葉：**古代史に興味があり各種の講座に参加したが、日本書紀は初めてで新しい知識を得て興味が深くなった。・レジメの読みやすさ、PC画像の明確さ、講師のユーモアに富んだ語りが素晴らしい。中学、高校生の時、榎原先生のような歴史の先生がいたら、私も史学科へ進学し日本の古代史を研究していたかも。この講座開催を3年も待っていた人々にとっては至宝の内容だった。・話が簡明で、説明チャートがよくできている、物事の関連が正確で時代の前後のつながりに不都合がない。古代日本の解説図書になりそうだ。ぜひ実現してほしい。・有意義な講座です、講師が大学など専門の研究者でなかったのに講義内容の充実度が不明でしたが十分なレベルで満足の数々でした。よく勉強されている。中途半端な学者より内容が充実していた。・大変客観的に歴史資料に基づいた解説を頂き、共感できる所大でした。・資料が豊富でわかりやすく素晴らしい講義でした、講師の飽きさせない話し方は見事です。・興味深く拝聴しました。知識が広がったと思います。古事記も日本書紀も関心はありませんでしたがこれらの対比が説明され楽しかったです。古代史が学べてよかった。続編があればうれしい。

（糸井史郎）

## これだけは知っておきたい 相続手続きと遺言書



2月10・17日（金）の2回にわたり、生涯学習センターの研修室4において開催された。講師は足立区で開業されている行政書士の奈良井達（さとる）氏。申込みは35名、受講者は27名、第1回23名・第2回27名・合計50名であった。第1回目は雪のためキャンセルが12名と大変多く、第2回目はやや増えたものの27名にとどまった。講座内容は受講者にとって関心が強く、令和6年度に少し視点を変えた「終活」講座を検討したい。

**第1回**は「相続手続きの基礎知識」で法定相続人と法定相続分について図解で説明され、続いて相続財産・遺言書のある相続と遺言書のない相続・遺留分・期限のある相続手続き・相続税・相続に関する専門家・相続の窓口について、実例を交えて説明された。

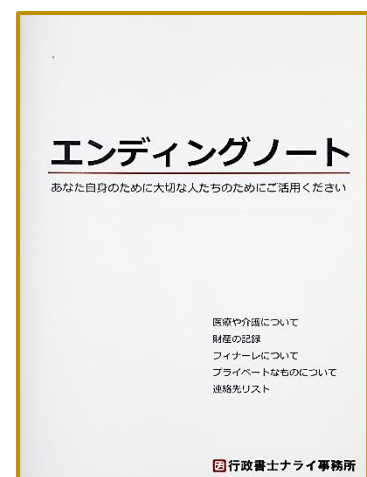
**第2回**は「遺言書の基礎知識」で遺言書のある相続手続きと遺言書のない相続手続き、自筆遺言証書と公正遺言証書、遺言書の書き方、遺言執行者・付言・遺留分、自筆証書遺言の失敗と公正遺言証書の失敗、書き直し・財産目録・遺言書の専門家等が解説された。今回も実例の紹介により事前に遺言書があれば遺産相続のトラブルを避けることができる点が強調された。



講座資料としては講師作成のレジュメのほか、「行政書士活用ガイド」・「一人で悩まない遺言・相続」・「エンディングノート」の3つの冊子が資料として配布された。

**受講者の言葉：**・税理士や行政書士などの専門家に相談しないといけないと思った。・まずは財産目録とエンディングノートに記入してみて相談に行こうと思った。・もう少し、時間をとって開催して欲しいです。・とても勉強になりました。具体例が多く紹介され分かりやすく参考になりました。・分かりやすく、参考になる内容で不安が解消したが、今後も継続して講座を開催して欲しい。・相続について学ぶことができ、今後の親や自身の相続の際に助かります。・これから終活を行うので大変参考になりました。エンディングノートを作成していきたい。・財産目録、遺言書を書いてみようと思う。エンディングノートを利用してみたい。・経験豊富な講師でしたので、色々な事例を交えてお話いただき大変参考になり理解できた。・自身の境遇から複雑な問題が沢山あることに気付かされ大変勉強になりました。ゆっくり専門家に相談します。

（糸井史郎）



# 令和5年2月 運営委員会 報告・連絡

日時：令和5年2月2日（木）14：30～  
場所：生涯学習センター：5階 研修室 4

## 議 事

### (1) 情報交換

事務局より「実費弁償による事務処理」の申請書を西新井税務署に提出いただきましたが、下記資料の提出要請がありました。

- ① 直近3年度分の収支報告書（令和3年度、令和2年度、令和元年度）
- ② 令和3年度の事業報告書
- ③ 「楽学の会」定款
- ④ 設立15周年記念誌
- ⑤ 契約書（受託事業の契約書等）

### (2) 月例会開催について

- ・1月の月例会は1月12日（木）大学塾の講座の作り方 広報G 金子勝治氏 参加者14名
- ・2月の月例会は2月16日（木）「社会福祉協議会の事業について」  
足立区社協 地域福祉部 部長補佐 鈴木 香世氏
- ・3月の月例会は3月24日（金）午前11時～「陽光桜を見る会」（詳細は別途チラシ案内）

### (3) あだち区民大学塾（検討会議・企画会議）

- 1月「徳川家康と二英傑」 応募者 75名 跡部 蛮 講師 1/15,22,29（日）
- 2月「日本書紀」編纂1300年 応募者 58名 榊原 金市 講師 2/7,14,21（火）
- 2月「遺産相続とその手続き」 応募者 35名 奈良井 達 講師 2/10,17（金）
- 3月 中世を読み解く『日記』 応募者 10名（2/2 現在）大関 直人 講師 3/4,11,25（土）

### (4) 受託事業について

- ・ナシ

### (5) 各部局・PTからの報告および提案

- ① 学習支援部
- ② ボランティア活動推進部
- ③ 事務局
- ④ 受託事業グループ
- ⑤ 広報グループ



### (6) その他

- ① 会員募集のためのチラシ配布  
1月の講座の2回目に受講者全員に配布しました。  
2月、3月の講座にも配布をお願いします。（2月・3月講座で配布）
- ② 2月-3月事務局当番の募集（積極的な参加をお願いいたします）

次回運営委員会 3月1日（水） 14：30から（研4）

## ◎講座名：若年者からシニアまで がんと仕事の両立支援講座

日 時：4/23(日) 午後1時30分～3時  
 対 象：16歳以上の方  
 会 場：5階 研修室1  
 受講料：800円  
 定 員：対面50人 オンライン20人  
 (事前申込先着順)

講 師：高橋 都 氏 (慈恵医大客員教授、港区  
 がん在宅緩和ケア支援センターアドバイザー)  
 内 容：がんについて理解を深めていただくと  
 ともに、働く方ががんと診断された時に治療と仕事  
 をどのように両立させていくのか、およびがん  
 罹患した社員、職員に対して企業、同僚等がど  
 のような配慮や労働条件を用意することが必要か  
 を学んでいただきます。

## ◎講座名：宇宙のごみ問題 ～サステナブルな宇宙開発に向けて

日 時：4/22(土) 午前10時～正午  
 対 象：16歳以上の方 (興味のある小中学生も  
 可)

会 場：5階 研修室1  
 受講料：800円  
 定 員：50人 (事前申込先着順)  
 講 師：木村 真一 氏 (東京理科大学 理工学部  
 電気電子情報工学科 教授 (スペースシステム創  
 造研究センターセンター長))  
 内 容：宇宙開発を進めるにあたり、立ちはだ  
 かる問題である宇宙ゴミ。  
 スペースデブリとも呼ばれる宇宙ゴミの正体とは？  
 なぜ問題となっているのか？  
 そんな疑問に答えます。また、宇宙ゴミ回収の技  
 術、取り組みについてもお話しします。

お申込みは：電話(03-5813-3730)又は直接窓口  
 インターネット [近所 de まなびナビ] で検索  
 イベント・講座情報→講座予約システム

### 令和5年3月「月例会」のご案内

日 時：3月24日(金) 午前11時  
 場 所：東武線牛田駅前(京成閩屋駅) 集合  
 汐入公園(隅田川沿い)  
 テーマ：「陽光桜を見る会」

### 令和5年4月「月例会」のご案内

日 時：4月11日(火) 午前10時  
 場 所：アーティゾン美術館(中央区京橋)  
 テーマ：「アートを楽しむ」  
 (詳細は後日チラシにて)

\*皆様の積極的な参加をお待ちしています。  
 (ボランティア活動推進部)

- ◎ 運営委員会  
3月1日(水) 午後2時半～4時 研修室4
- ◎ 月例会  
3月24日(木) 午前11時～ 陽光桜を見る会
- ◎ 学習支援部  
3月15日(水) 午後1時～2時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部  
3月15日(水) 午後3時～4時 ワークルーム
- ◎ 事務局  
3月2日(金) 午後2時～4時 ニュース発送  
3月14日(火) 27日(月)31日(金)事務局部会
- ◎ 広報グループ  
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議  
3月15日(水) 午後2時～3時 研修室4
- ◎ 大学塾講座企画会議  
3月1日(水) 午後1時半～2時半 研修室4
- ◎ 生涯学習センター 休館日  
3月13日(月)

## ★お問い合わせ＆ご意見

- ◎「楽学の会」の運営に関するお問合せ  
事務局 江川武男 電話:090-3105-8140  
E-Mail : [takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp](mailto:takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp)

## 編集後記

### 脱炭素化社会に向けての取り組み(その3) 再生可能なエネルギーの普及

近年日本でもガソリンの代わりに水素を原料にCO2の排出を抑える電気自動車(水素を燃焼させてエネルギーとする「水素エンジン搭載車」と水素と空気中の酸素を燃料電池で発電してモーターを動力とする「水素燃料電池搭載車」)の研究と実験が進められています。水素自動車が排出する物質は水蒸気のみです。二酸化炭素や窒素酸化物などの環境汚染を招く物質は排出しません。

また、化石燃料のように枯渇する心配がない点は高い評価を得ています。地球上に無尽蔵にある水を電気分解して水素として蓄えておけば、そのまま燃料として使うもよし再び電気に変えてもよしと便利に使えます。他にも、火力発電に使うと二酸化炭素を大量に排出してしまう安価な褐炭から水素を取り出す「褐炭水素プロジェクト」、下水汚泥から発生するメタンから水素を生成する技術も確立されつつあります。しかし、それらには、膨大な設備投資(電気分解や水素の圧縮、水素漏れの検知機能、水素ステーション網の整備)や安全性などの課題も山積。開発より撤退や凍結するメーカーも出ていて普及するにはまだ期間を要すると言われてしています。そのほかには、太陽光発電や風力発電もありますが、日本特有の地形と気象変化による発電量が大幅に変動するなどの弱点もあり設置する地域によっては環境問題も含め課題も多いのが現状です。(次号へつづく) 金子記